



1 出会いから子どもの成長まで 「つながる未来を応援するまちづくり」 プロジェクト

① 将来のイメージ

結婚を希望する人が、安心して将来のよきパートナーと出会うきっかけとなる婚活イベントやツアーなどが盛んに行われており、多くのカップルが生まれ、結婚に至るケースも出ています。また、子どもをもつことを希望する夫婦は、妊娠・出産から子育てまでの総合的な相談や様々なサポート、経済的な支援を受けることができるため、安心して子どもを産み育てられる環境が整ってきています。

さらに、家庭訪問や健康診断時の育児支援をとおした専門家のアドバイスや、育児教室の充実などにより、父親も積極的に育児に参加していることで、母親が一人で子育ての悩みを抱えることなく赤ちゃんと向き合うことができます。また、身近な地域にかかりつけの小児科医が充実するとともに、365日24時間対応の小児救急医療体制が維持されていて、子どもたちの健やかな成長が守られています。

そして、新たな民間保育施設や企業などの事業所内保育施設が整備されたことにより、保育の受け皿が確保され、待機児童はゼロになっています。また、子どもたちの居場所も確保されてきたことから、親が仕事と子育てを両立できる環境が整い、ゆとりをもった生活が送られています。

学校教育の場では、学校の地域性を生かした特色ある活動のほか、小・中学校連携など多様な教育をさらに進めるとともに、松山市教育研修センターを中心に教職員の研修の機会が充実しており、子どもたちは、学力や体力だけではなく、自ら考えて課題を解決する力や、人を思いやる気持ちを育てています。

② 主な取り組み

- 出会いのサポート
- 子どもの拠点・居場所づくり
- 安心して出産・子育てができる環境の整備
- 生きる力を育む学校教育の充実
- 小児救急医療体制の維持

③ 将来のひとコマ

週末、松山さんの家に、愛子さんの弟の好古さんと多美さんが夫婦で遊びに来ました。二人は、松山市が主催する婚活イベントがきっかけで3年前に結婚し、赤ちゃんが生まれたばかりです。

多美さんは小学校の先生で、「私は2学期から職場復帰する予定やけん、子どもは保育所に預けることにするんやけど、今は年度途中でも割と入りやすくなっとるけん、とても助かるよね。」と言います。愛子さんが「予定どおりでよかったやん。出産後も仕事を続ける友達が多いん？」と尋ねると、多美さんは、「いろいろですね。育休をしっかりとってから復帰する人もおるし、小学校のうちは家にいたいって言うて、仕事を辞める人もおるし。子育てが一段落してから再就職した友達もいますよ。松山は自分の生活にあわせて色んな選択ができるところですね。」と答えます。

「初めての子育てはどんな？」と松山さんが尋ねると、「心配なことがあったら、子育て世代包括支援センター*で保健師さんに相談することが多いですね。ネットでは、いろんな情報があって、よけい悩んだりして、それなら最初から専門家にきちんと相談したほうが早いと思って。」と多美さんが言います。「好古くんもしっかり協力できとるし、あんまり心配はないかな。」好古さんは、「そう。うちも共働きやし、僕も頑張るとるよ。相談やイベントにも一緒に行くとるけん。おかげでママ友もパパ友もたくさんできたけど、まっ僕が一番のイクメンやね。」と笑って付け加えました。

「でも、好古くん。はじめて、この子が熱出したときに大慌てしとったやろ。」と言う多美さんに「そりゃあ、夜中に40度近く出たら驚くよ。急患医療センターで見てもらってやっと少し安心できたんやけど。」と、好古さんは照れながら言いました。

多美さんは幸子ちゃんに、「幸ちゃんは、児童クラブに行きよん？」と尋ねました。すると幸子ちゃんは、「うん。児童クラブに行かない日は、公民館の放課後子ども教室にも行きよるよ。こないだは、となりの^{くま}忽那のおばちゃんが、お手玉教えてくれたんよ。」と答えます。愛子さんの、「保育所だけじゃなくて、児童クラブにも入りやすくなっとるけんね。」という声に幸子ちゃんが続けて「松山では『小1の壁*』の心配はせんでええね。」と言ったので、みんな大笑いしました。

松山さんは、「最近では学校で、松山の歴史や文化をしっかりと教えとるけん、わが家では幸子や笑太が、松山の先生やね。」と言います。「自分らでいろんな課題を解決するためにどうしたらいいか、話し合う機会も多いけん、まっ僕と幸子もしょっちゅう議論しよんよね。」と言った笑太くんは、「未だにみかんの食べた数で言い合いになるんが、議論なんやね。」と返した愛子さんの言葉にみんなはもう一度大笑いしました。

学校や地域で様々なことを学んで、成長している笑太くと幸子ちゃんの表情を見ながら、多美さんは、好古さんと微笑み合い、腕の中ですやすやと眠る子どもの頭をそととなでました。



2 わがまち松山への愛着と誇りの醸成による 「住み続けたいまちづくり」プロジェクト

① 将来のイメージ

松山に住む人自身が、自分たちの地域の良さや貴重な資源を理解し、その利活用のために積極的な活動を行っていることで、多くの方に松山の魅力が伝わり、地域に新たなにぎわいが生まれています。中心市街地では、松山アーバンデザインセンター*を中心に、花園町通りや商店街などの公共空間を活用した様々なイベントが市民主体で行われています。また、三津浜や風早、かざはや 忽那諸島など、それぞれの地域特性を生かした取り組みが盛んに行われており、住民同士の勉強会やワークショップをとおり、自分たちが住むまちの「だから」を生かした新たなまちおこし事業がスタートするとともに、地域外の人たちが、まち歩きツアーやウォーキングイベントに参加することにより、新たな魅力の発見や向上につながっています。

また、まちづくり協議会*や市民団体、NPO*などの盛んな活動により、地域のまちづくりに積極的に関わろうとする機運がさらに高まっており、「タウンミーティング*」をはじめとした様々な機会をとおして、行政と市民がしっかりと対話を進める中で、自分たちのまちのことを自分たちで考え、自分たちの力でさらに発展させていくという意識をもった市民が増えています。

さらに、市内企業は、地域活動や市民活動などへの積極的な支援、職場見学、体験の場の提供などをとおり、市民との交流を進めており、それをきっかけに企業を知り、実際に就職する若者も増えています。

こうした、まちの良さを知り、まちを育てていく活動をとおして、自分たちの暮らすまちへの愛着と誇りが広く育まれています。

② 主な取り組み

- 地域資源の利活用と知る機会の充実
- 市民との対話による政策形成
- まちづくりに携わる団体等への支援
- 風早・忽那諸島の活性化
- 子どもや若者のシビックプライド醸成

③ 将来のひとコマ

「ここにある碑に、しっかりその功績が刻まれています。」

説明を終えた笑太くんに、松山さんたちは、大きな拍手を送りました。今日の日曜日、笑太くんが、地元のみち歩きイベントで案内役をすることになったため、松山さん一家は、松山さんの両親を誘って、今日は下見に来ています。

「それにしても、笑太はよう勉強しとるなぁ。わしらでも知らんことばかりやったわい。」と、松山さんのお父さんが褒めると「地元の人たちとか、大学生のお兄さんらの受け売りやけどね。」と、照れたように笑太くんが答えました。「でも最初、笑太たちのグループが、タウンミーティング*で、地元の史跡めぐりの再整備を提案したときは、大変やろうと思ひよったけど、こんなに早く実現するとはなぁ。」と感心するように言った松山さんに、「まちづくり協議会*にも、大学生とか若い人が参加しとったね。今は、若い人たちが、こういうまちおこしに参加してくれるんやね。」と愛子さんが続けました。

松山さんのお母さんも「うちのNPO*でも若い人が増えとるんよ。新しいアイデアとかも色々出してくれてね。今度、好古くんとこの団体とも連携することになったんよ。」と嬉しそうです。

「弟も、いろんな市民団体が連携することが多いけん、活気が出ているって喜びよりますね。」と愛子さんも言います。「大きいイベントのときも、いろんな団体が協力し合っとるけん盛り上がってますね。こないだは中島のトライアスロンのボランティアだったみたいです。県外出身の学生さんらは、初めて島に行っただっていう子も多くて、みんな楽しそうで、こういうとこに住みたいなーって言いよったらしいですよ。」

「そういえば、笑太が小学生のときに、お世話になった歴史サークルの大学生が、今度うちの会社に就職することになってね。」と松山さんが言います。「うちの会社は、創業が古いけん、彼が学生時代に昔の機械の見学に来たことがあって、そのときの印象が良かったって言うてくれてね。一度は、県外に就職してたんやけど、やっぱり松山がいいから帰ってきたって言よったよ。」

そのとき、誰かのお腹がぐーっと鳴りました。顔を少し赤らめた幸子ちゃんが、地元でずっと続いている食堂を指さし「ほら、もっと地元への愛を深めてみん？」と言ったので、皆は笑いながら、懐かしい匂いのする食堂の扉を開きました。

店に入る前に、笑太くんがそっと鞆にしまった原稿には、家族の前では少し照れくさくて言えなかった締めくくりの言葉が書かれています。

『ここにある碑に、しっかりその功績が刻まれています。僕は、こんな素敵な「たから」を生み、守ってきたこのまちに生まれて本当に良かったと思っています。そして、この「たから」を妹たちや、自分の子どもたちのためにしっかりと引き継ぎ、もっと輝かせていきたいと思います。』

